

## 竹を活かした町づくりを目指して

―竹林整備や筍食品の開発・製造販売―



NPO法人加茂女理事

● 曾我 千代子

「NPO法人 加茂女」は、35年前に加茂町（現：木津川市）の南端、奈良市との県境に新しく出来たニュータウン（南加茂台）に転居してき

た女性達が集まって、子育ての悩みを相談したり、生活の知恵を教え合ったりする公民館サークルとして発足したのが始まりです。

集まって活動する中で「何か地域に役立つことをしよう」と、アルミ缶

回収を行い、その売却益を社会福祉協議会に寄付するようになりました。

### 竹林が荒れだして

当時、住宅地の周辺は、山城筍の主産地でしたので、風光明媚な竹林風景が広がっていました。しかし、筍の価格が中国産筍との競争に敗れたことや竹の需要そのものが減ったことから、竹林が荒れだしました。そこにゴミの不法投棄が始まり、とうとう産業廃棄物の埋立地が出来るとい

う問題が発生するに至りました。環境問題に取り組むグループとして署名を行い、議会に請願を提出して反対運動に係りました。結局、私たちの住む周辺地に大きな産業廃棄物の埋立地が完成してしまいました。

### 補助金活用で竹林整備

荒れた竹林を放置したことにより

ゴミの不法投棄が相次ぎ、大きな環境破壊問題に発展したという苦い経験から、森や竹林を荒らさないことが重要と考えるようになりました。そこで、自分たちで竹林整備をして

みようとして話し合い、京都府の地域力再生交付金事業に応募して、ノコやナタ、チェーンソーなどを揃え、放置竹林整備を始めました。すると定年退職した男性達も参加するようになり、活動は一気に進みました。

### 竹の活用に挑戦

竹を切るだけではもったいないと、竹の利用方法として竹細工なども手がけましたが、その程度では一向に竹は減少しません。切っても切っても生えてくる竹に業を煮やし、誰が言うともなく「竹を食べて減らそう」と、竹や筍の食品開発に取り組むことになりました。



整備された竹林

偶然新聞で見えて応募した「山城地区ふるさと加工食品コンクール」で、「筍お焼き（かぐや姫のおやつ）」が最優秀賞を頂きました。この「筍お焼き（かぐや姫のおやつ）」は、生地に竹の粉（静岡県の淡竹屋さんが開発した特許製品）を入れ、具材に筍と豚肉を入れた物で（今は椎茸や小豆、豚コシヨウなど4種類の味があります）竹をイメージした細長い形で蒸し焼きにしています。「京都のお焼きは細長い。ほそく・ながーい、お付き合いを！」をキャッチフレーズにしています。

### とうとう法人化を実現

賞を頂いて元気になった女性達

## 地域づくりの現場から

### 団体プロフィール

設立＝平成元年4月  
 (平成22年10月NPO法人格取得  
 平成27年4月認定NPO法人格取得)  
 代表者＝理事長 久保田奈美江  
 会員数＝正会員30人 活動会員65人  
 (連絡先)  
 〒619-1127  
 京都府木津川市南加茂台4-16-9  
 TEL・FAX 0774-66-1895

は、加工食品をイベントなどで販売するようになりまし。これを団体として活動したいと考え、2010年10月に法人格を取得しました。法人として保健所の食品製造業許可を取得することで、団体としての食品販売を行えるようになったのです。

製造を行っている施設では、運営資金を捻出するため空きスペースの貸し出しや教室の開催、竹の器を使つてのカフェやランチ提供なども始めました。かつては、自分たちでお金を出し合つてのボランティア活動団体でしたが、法人になって初めて食品部門で人件費を支払えるように



おやきづくり

になりました。

地域住民の高齢化と商店街のシャッター通り化が進み古くなってしまつた住宅街にあつて、高齢女性が集まつての食品づくりは、ささやかな給金でもやりがいがあつて励みになり、雇用の場の提供や居場所づくりとしての意義があると考えています。

### 竹と筍の魅力発信基地の創設

また、地域のコミュニティの拠点となる努力と合わせ、木津川市の美しい竹林風景の再認識を内外にアピールしていくために、「竹と筍の魅力



竹チップトイレ

力発信活動の拠点」としてのアンテナカフェを目指しています。

2015年4月には、認定NPO法人格も取得しました。今に続くアルミ缶回収活動を始め、その売上金報告とリサイクル啓発活動を中心とした月1回のミニコミ誌の発行や、竹林整備活動とそれに付随する食品開発と製造販売、さらには町おこしのためのイベントにも参加しています。また、昨年から竹をチップ化しての活用法を新たに模索し始めました。竹の消臭力や発酵力を利用して室内用のトイレを作り、災害時や高齢者のベッド横のトイレにする



竹の伐採

方法です。使用済みの尿入り竹チップは肥料にもなります。現在は実証実験に取り組み、実際に高齢者施設で使つていただいております。

### 日本中の竹林を再生させるのが夢

地域の竹林を以前のように美しく再生させるには、私たちが竹の現代における使い方を見つけること、そして竹や筍で採算が合う事業展開を実現して見本となり、次世代に引き継げるような方法にチャレンジする団体に育つていくことが必要と考えています。

21世紀は、枯渇する地下資源の使用から地上資源を活用する自然回帰の時代になると考えていますので、成長の早い竹は必要不可欠な資源として見直されるのではないかと自負しています。

皆様方に支えられながら、これからもNPO法人加茂女は「継続」を合言葉に、さらなる竹と筍の活用を考えての町づくりを進めて参ります。